



馬印青梅情報 2025年第1号

2025年3月6日発行



(平野部)



(山間部)

和歌山の梅の状況

【蕾】着蕾（ちやくらい）数は、例年に比べ、平年並みか、やや多くなっています。今後、開花、受粉、果実肥大、生理落果などの要素があり、最終的に実として収穫されるのは10%前後です。気温、風速、降水量等の気象条件に大きく左右される為現時点で明確な予測は出来ません。

【開花状況】2月の寒波の影響で、地域によりばらつきはありますが、開花時期は例年に比べ、10日〜2週間ほど開化が遅れています。現在、平野部ではほぼ満開に近い状況ですが、山間部では咲き始めで、未だ開化前の木も多い状況です。

【出荷見通し】今後暖かく穏やかな気候が続けば、受粉も良好に進み、豊作が期待できると思われれます。但し、現在、梅干しの需要が好調で在庫が少ない状況です。青梅で出荷するか、梅干しに回すかは基本的に農家判断となり、青梅出荷に影響が出る可能性があります。

【写真】2月27日撮影。（みなべ町）

青梅収穫情報判断の参考

中日本冰糖株式会社調査

年度	結果樹面積 (ha)	梅収穫量 (t)	冰糖出荷高 (t)	気象情勢				満開時期						備考	
				温暖○		寒冷◎		和歌山県			群馬県				
				1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	1月	2月	3月		
2016年	15,600	92,700	14,018	○	○	○	○			中旬				中旬	不作型
2017年	15,100	86,800	13,690	◎	◎	○	◎			中旬				中旬	不作型
2018年	14,800	112,400	15,008	◎	◎	○	○			下旬				中旬	豊作型
2019年	14,500	88,100	14,899	○	○	◎	◎			中旬				上旬	不作型
2020年	14,100	71,110	13,444	○	○	◎	◎			上旬				上旬	不作型
2021年	13,800	104,600	15,460	◎	○	○	○			中旬				中旬	豊作型
2022年	13,500	96,600	14,752	○	○	○	◎			下旬				中旬	不作型
2023年	13,200	95,000	13,924	○	○	○	○			中旬				中旬	不作型
2024年	12,900	51,600	11,701	○	○	○	○			下旬				上旬	不作型
2025年				○	◎										

梅ってどんな種類があるの？



花梅

実梅

様々な種類、品種がありますが、大きく分けて観賞用の「花梅」と収穫用の「実梅」2種類に分けられます。花梅は鮮やかな色合いの花で全国各地に名所があり、実梅は果肉が柔らかく梅干しなどに広く使われています。

梅の受粉とミツバチの関係

梅は自家受粉出来ず蜂に手伝ってもらわなければなりません。その為、蜂の活性が梅の受粉に大きな影響を与えます。気温12度以上、風速3m以下で雨が降っていない状況だと蜂が活発に活動するとわかってきます。開花後の気候が大きく関わってきます。

実は蜂側にもメリットがあります。花の少ない早春でも花粉や蜜を得られ、女王蜂の産卵や働き蜂の活動を活発にさせることができます。梅とミツバチは持ちつ持たれつ、切っても切れない仲なのです。



今後とも馬印の冰糖糖をよろしくお願ひします。

中日本冰糖株式会社

URL : <https://nakahyo.co.jp/>

Instagramアカウント nakanipponhyoto

